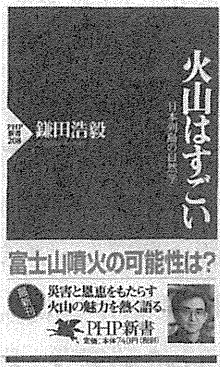


書評

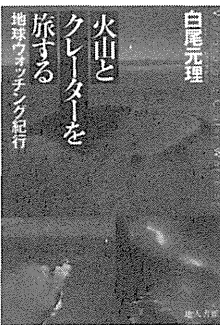
メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2018-05-15 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 小山, 真人 メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.14945/00025074

書評



「火山はすごい 日本列島の自然学」鎌田浩毅 著

PHP研究所刊 (PHP新書)、2002年6月、240p、本体740円



「火山とクレーターを旅する 地球ウォッチング紀行」白尾元理 著

地人書館刊、2002年6月、230p、本体1,500円

肩が凝らずに気軽に読める火山解説書が2冊ほぼ同時に刊行されたので、紹介しておきたい。著者の鎌田さんと白尾さんは、二人とも私の古い友人である。

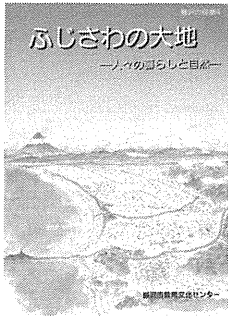
鎌田さんは、通産省地質調査所（現在は経済産業省産業技術総合研究所）に長く勤務された後、現在は京都大学総合人間科学部教授として教鞭をふるう中堅火山学者である。一方、白尾さんは、かつて東京大学地震研究所で伊豆の達磨火山を研究対象として修士の学位をとられた後、現在は東京浅草にある実家のお寺の住職をしつつ、世界をまたにかけて活躍する天体・自然写真家として名を馳せている。

鎌田さんは勤勉実直できまじめな研究者であるが、研究室にこもるタイプではなく、一般市民への火山学の普及・啓発に並々ならぬ情熱をもっておられる。一

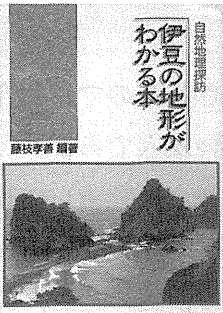
方の白尾さんは穏やかであるが、いつもマイペースでちょっと抜けた所もある親しみやすい方である。表記2冊を読んでみて、そんなお二人の生き方や性格をそのまま反映したような本だなあと、まずは感心した次第である。

鎌田さんの「火山はすごい」は、阿蘇山・富士山・雲仙普賢岳・有珠山・三宅島という日本を代表する5火山について、それぞれの生い立ちや最近のトピックスについて個別に解説するスタイルをとりつつも、火山学の基礎についてまんべんなく学習できるという、ある意味で計算しつくされた本である。とは言っても、文章はエッセイ風であり、わかりやすい図や写真も豊富で、読者をまったく飽きさせない。話題も学問的なことだけに限らず、火山にまつわる人や社会のさまざまな話も織り交ぜられている。完成度の高い科学エッセイとして、万人に安心して勧められる書である。

白尾さんの「火山とクレーターを旅する」は、著者自身が世界各地の隕石孔や火山（クラカタウ、オールドイニョ・レンガイ、ストロンボリ、ハワイ、三宅島海底火口）を訪れたり、彗星や流星群やオーロラの撮影旅行をした体験がつづられた純粋な旅行記であり、鎌田さんの本のような緻密さや市民への啓発意図は見られない。しかし、その旅行記は、通常の人がふつうは行かない場所で、一生にそう何度もない素晴らしい体験をつづった物語であり、その道の人には垂涎の内容である。写真撮影の趣味がある人は、熟練した写真家がどのように場所・機材を選択し、どう撮影するかの方法がわかるので、大いに参考になることだろう。唯一フラストレーションがたまったのは、肝心の素晴らしいカラー写真が本の表紙と裏表紙でしか見られないことであった。 小山真人（静岡大学教育学部）



「ふじさわの大地—一人々の暮らしと自然—」藤沢の自然編集委員会 編
藤沢市教育文化センター刊、2002年3月、160p、本体+送料1,810円
「自然地理探訪 伊豆の地形がわかる本」藤枝孝善 編著
自費出版、2001年12月、302p、非売品



最近はこちらの県で、カラー刷りを多用しながらも安価な自然解説書が次々と刊行されている。地形や露頭見学案内など、地学に特化されたものも多い。静岡県でも遅ればせながら「しずおか自然図鑑」(静岡新聞社)が刊行されたが、残念ながら地学に関係した部分は全体のわずか8%に過ぎない。将来的に見習うべき良き先例として、隣の神奈川県で最近刊行された「ふじさわの大地」を紹介したい。

また、このような書が刊行される背景として、地元にも根を下ろした研究者・教育者の知識や意識の向上が欠かせない。カラー刷りとはいかないまでも、地元の地学に関する最新の知識や研究成果を紹介する本が次々と刊行されるような状況

が望ましいが、その点では静岡県はまだまだ後進県ではないだろうか。そんな中で、藤枝会員らの手による「伊豆の地形がわかる本」が刊行されたことは貴重であるので、それも紹介したい。

「ふじさわの大地」は、なんと全頁カラー刷りの、藤沢市周辺の地形・地質に関する見学案内(一部に実験ガイドも含む)であり、地元の理科教員ら9人の共同執筆書である。内容は地学散歩案内から始まり、その基礎知識としての地元の地質や災害の歴史が語られる。その中では、2万年前から現在までを8つの時期に区分して描いた藤沢市域の古地形復元図が圧巻である。さらに、地形景観から地学的な歴史を読みとる方法が具体例を添えて解説され、遺跡、建造物の石材、化石のガイドが続き、最後に「おもしろ実験」コーナーがある。内容はよく練られており、文章もわかりやすい上に、図や写真がきわめて豊富である。中高生徒のための副読本として、そのまま使用できる高い完成度を誇る。神奈川県の地学教育界の底力を見せつけられた思いがする。入手先は、藤沢市文書館(神奈川県藤沢市朝日町12-6 電話0466-24-0171)である。

「伊豆の地形がわかる本」は、沼津高専で長く教鞭をとられた藤枝会員とその関係者によって書かれた伊豆半島とその周辺の地形解説書であるが、内容は自然地理を主としながらも人文地理や文学までを含む幅の広いものである。表題に「伊豆」とあるが、実際には沼津市と富士市の海岸地域や、駿河湾の海底地形の話も含まれている。本の構成としては、まず「本州から突き出た特異な半島」と題して、さまざまな分野・切り口から6つの概論が語られ、その後北部・中部・南部に分けて19のテーマの各論が語られる。内容は、火山、活断層、段丘、平野の地下地質、海岸、湧水、温泉、地誌、文学、地殻変動、崩壊、土石流災害など、きわめて多岐にわたっている。とりわけ私にとって新鮮かつ衝撃的だったのは、三島由紀夫の作品中に描写される伊豆の自然や方言を論じた鈴木邦彦氏(沼津高専教授)による文学論である。このような視点は文理融合の真髄であり、総合的学習のための一つのヒントになるのではないだろうか。入手に関する問合せ先は、藤枝孝善(沼津市根古屋55-45 電話0559-67-4253)まで。

小山真人(静岡大学教育学部)